

# 地域と協同の 171号 研究センターNEWS

2018年11月25日発行

【巻頭言】

## 地域に広がりつつある「生活ガバナンス」の取組み

石田好江

愛知淑徳大学 名誉教授

私たちはいま、とても生きにくい時代を生きていると言えます。例えば、高度情報化の進展は利便性を格段に高めました。一方でフェイクニュースなどの誤った情報に振り回されるリスクも高めています。グローバル化は外国人労働者との共生を進めましたが、他方では、外国人労働者に職を奪われた、社会保障負担が増大したというような自国民の不満を増大させることにもなりました。また、生命科学の発展・生殖技術の進歩は不妊に苦しむ人々を救う一方で、どこまでの不妊治療が許されるのかという問題を突きつけています。何が正しいかの基準が揺らぐ一方で、自己責任だけが声高に叫ばれ、私たちは常に不安を抱えながら生活するようになっていきます。それだけでなく、このような複雑化した社会では、従来のような簡素な手段で多くの人々を支援するような制度では対応できなくなり（制度の狭間問題の発生）、個人の抱える個別の問題を、社会的に解決すべきか、個人の責任で解決すべきかの判断が求められるようになっていきます。

いま、このような生きにくい、複雑化した社会に対抗する取組みが地域の中で生まれてきています。子ども食堂から認知症カフェまで、多様な居場所づくりやたまり場づくりの取組みがそれです。個人の抱える問題は一見同じように見えても、問題が複合化していることから個別のばらばらです。そうした個別の問題やニーズに耳を傾け、まずは承認し、さらには多様なつながりの中で寄り添いながら解決していこうという取組みが居場所づくり・たまり場づくりの取組みです。居場所やたまり場はその趣旨から垣根を低くして誰もが来られる場所になっていますので、そこには当然のことながら異なった道徳観や生活感の対立が持ち込まれます。実際はまだ不十分ではありますが、たまり場の中にはそれぞれの意思決定を尊重しつつ、対立を対話や熟議で乗り越え、個人や地域の問題解決を図ろうとする動きも出始めています。

私は、このような個人の個別の問題を、その人の意思決定に寄り添いながら、かつ他者との相互作用の中で解決することを目的とする取組みと、その目的達成のプロセスに、対話や熟議などを通じてガバナンス機能を効かせることを「生活ガバナンス」と命名しました。私たちの生き方に関わるところに、ひとり一人の意思決定に寄り添いながら、そこにデモクラシー・ガバナンスを機能させていくというのは結構な「離れ業」でもあります。しかし、自己責任を強いられる社会で自己の尊厳を守るためにも、地域や私たちの生活の持続可能のためにも、これはやっていかなければならないものと考えています。

10月から本研究センターで「協働を学びあう講座」がスタートしました。この中にはいくつかの居場所・たまり場づくりが登場します。現場の実践を知る貴重な機会ですので、私もこの連続講座をたいへん楽しみにしているところです。

(いしだ よしえ)

### CONTENTS

【巻頭言】地域に広がりつつある「生活ガバナンス」の取組み / 石田好江	1	【関わる人のエンパワメント】「市民が協働を学ぶ講座」がスタートしました	4
【三河地域懇談会】豊川海軍工廠平和公園見学会報告	2	▶情報クリップ	5
【岐阜地域懇談会】認定NPO法人「ひなたぼっこ」合同職員研修会に参加して	3	▶企画紹介「市民対象公害環境問題講演会」	7
		▶<新> 会員寄稿	8

※11月活動は6頁に掲載しました

三河地域懇談会

平和への思いをあらたに・・・

豊川海軍工廠平和公園見学会 報告

文責：伊藤小友美（事務局）



11月8日、秋晴れの日、三河地域懇談会世話人会主催の「豊川海軍工廠平和公園見学会」を18人の参加で開催しました。三河地域懇談会では、奥三河や渥美半島、佐久島、岡崎等を巡り、三河地域の歴史・風土・文化を体感する活動を重ねています。今年、6月に開園された豊川海軍工廠平和公園をボランティアガイドの案内で見学し、あらためて平和について考え合いました。

この企画には、豊川海軍工廠の元見習工員で\*八七会（はちななかい）会長の大石辰己（おおいたつみ）さんをご参加くださいました。昼食も一緒にしながら、当時のお話をうかがうことができました。供養塔を訪ね、手を合わせることもできました。\*八七会は豊川海軍工廠生存者の会、空爆が8月7日にあったことに由来する。



大石さんは、その戦争体験を70年間、ご家族にも語ることなく過ごしてこられました。戦後70年を迎えたころ、重い口を開き、豊川での体験を語り始めました。当時のことを思い出すたびに、涙が流れます。この日も、豊川市が作成した映像を見ながら、涙があふれ、止まらない様子でした。展示されているご友人の日記を見ながら、「僕は毎日書いていたけど、当時はつらいとは思わなかった」と言われました。海軍工廠見習工員の5期生は1600人いたそうですが、工廠で働くことはたいへん名誉なことで、希望に燃えてみな勉学、仕事に励んだとのこと。大石さんは今も毎月2回、豊川稲荷裏手にある供養塔の清掃作業や犠牲者の供養活動をされています。最後に「みなさんに会えて、話せてよかった」とおっしゃったことをとてもうれしく思いました。

◆ 豊川海軍工廠と平和公園、平和交流館 ◆

豊川海軍工廠は海軍兵器の生産を目的として、昭和14年に開庁しました。機銃および弾丸や艦船で使用する測距儀、双眼鏡、射撃装置などを生産し、東洋一の兵器工場と言われました。工廠の発展は、豊川市の誕生・発展に大きな影響を与えましたが、昭和20年8月7日にB29爆撃機等により壊滅的な被害を受け、2,500名以上が犠牲になりました。工廠では、6万人近くもの人々が働いていました。中には12～13歳の国民学校高等科児童もいました。

戦後50周年の平成7年に、豊川市は平和都市宣言をしました。この宣言には「歴史上かつてないほど多くの犠牲者を出したこうしたことが、なぜ起きたのか、ともに考え、子孫に語り継いでいかなければならない」ことをうたっています。その思いのもと、悲しい歴史が刻まれたこの場所で戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えることを目的として、豊川海軍工廠平和公園は整備されました。園内には、豊川海軍工廠の建物（火薬庫・信管置場）や防空壕跡、着弾の跡などの当時を偲ぶ遺構、海軍工廠の歴史・戦争遺跡について学ぶ平和交流館などがあります。



豊川市では、戦争があったことを風化させないためには、戦争を知らない世代による語り継ぎが大切と考え、戦争を知らない世代がともにその歴史を学び、伝えることを目的として、平和公園での案内ガイドや海軍工廠関係資料の整理作業などのボランティア活動に取り組まれています。当日は、ボランティアガイドの前澤このみさん、長坂すぎ子さん（おふたりともにコープあいち組合員・研究センター会員）にご案内いただきました。

平和交流館では、豊川海軍工廠について、その時代を振り返りながら、関係資料・写真・体験者の証言などを交え紹介しています。歴史の生き証人である園内の戦争遺跡も含め、豊川海軍工廠とかつての戦争について学ぶことができます。

桜ヶ丘高等女学校の1年生だった石川智代さんは、空襲で犠牲になりました。「親より先に死ぬ親不孝者どうぞお許し下さい。例へ命は散っても魂だけは此の世に遺して、お父様お母様の御体をお守りします。（一部略）」と生前にしたための遺言状が仏壇から見つかり、平和交流館で展示されています。尊い若い命がたくさん犠牲になったことを痛感する貴重な展示がたくさんあり、考えさせられました。見学に訪れた子どもたちのメッセージも掲げられていました。

現在2万人を越す方々が、公園を訪れているそうです。

<参加者より> ○ゆたか福祉会の創設者のひとり、日本福祉大学名誉教授、秦安雄さんが、中学（豊橋第2中学）時代に学徒動員で豊川海軍工廠で仕事をしていて九死に一生を得たことを聞いていたので、一度訪れたいと思っていた。想像を絶する規模の工場だったことを実感しました。○ボランティアガイドの説明もていねいで、ご自身のお父様のことも交えて話されたことに好感を持ちました。○防空壕のお粗末さ（天井がない露天式のものもあった）を知り、「命は軽かった」そう扱われていたことの証明だと思いました。○特に多くの学徒の方の犠牲を悲しく思いました。○大石会長が、「公園が整備されて嬉しいと思う」とおっしゃっていたのが印象的。平和の大切さを発する、そして多くの方々に気付いていただける場所としてあり続けてほしいと思う。

## 認定 NPO 法人ひなたぼっこ 合同職員研修会に参加して

岐阜地域懇談会世話人 熊崎辰広

11月7日 NPO 法人「ひなたぼっこ」（高齢者、障がい者を対象にした小規模・多機能在宅支援事業所）の合同職員研修会が開催され、岐阜地区懇談会の世話人6名が参加しました。会場は中津川市の蛭川公民館。「あきの里」「こまんぼ」「ひなとぼっこ」の三つの施設で働いている職員24名が参加しました。

計30名が5つのグループに分かれてのグループ討論を行いました。

### 1. 今回の研修テーマと当日の主なスケジュール（9:00～15:30）

研修テーマ：①「心の声を聴く」～当事者の立場にたった介護、支援とは

②協同と協同労働について考える

- ・午前中は、①のテーマを受けて、三つの体験発表を聞き、グループで感想や体験、事例検討。
- ・午後からは、②のテーマでまず橋本吉広氏（地域と協同の研究センター研究員）の講演を聞き、再びグループにわかれての討議。

### 2. 「心の声を聴く」について

「ひなたぼっこ」の若林さんは、三年目になったこの「心の声を聴く」というテーマは、迷った時に立ちもどる指針であり、相手のペースに合わせて「待つ」ことの大切さを報告されました。そのうえでその方の本心にそった取り組みがもとめられ、さらに彼女は、それだけでは十分でなく、できるだけ家族の気持ちなども理解することが大切であり、デイサービスの広がりになる、と発表されました。「あきの里」の磯村さんは、最初は言葉が話せない子に、何をどうすればわからなかったのが、自分のペースではなく相手の気持ちを考えて支援していくことで、少しずつ分かかってきた、とその体験を話されました。「そよかぜ」の杉浦さんは、認知症の方の対応のむつかしさ、たとえば「言葉かけをし終わらないうちにパンチをくらった」り「誰も一回は泣かされるか怖い思い」をしている、ということでした。それでもあきらめず、さりげない声かけや支援で「薄皮を剥ぐ」ように、信頼を作ってきている、その困難さを語られました。

### 3. 協同と協同労働について（以下、「協同と協同労働について」というテーマの橋本氏の講演内容）

①「協同」については「みんなで働き、みんなで運営し、みんなで資金」といういくつかの要素を抱合している。また「協同労働」については「人が働くには、協同労働という働き方が一番いい働き方で、だから協同労働もまた、ある意味で〈永遠のテーマ〉であり、そこに向かい働き方の工夫をし続けていくことが大切だ」と考える。

②. NPO 法人は、株式会社とは違い、資金提供者の利益ではなく、NPO 法人が提供するサービスを利用する当事者の便益の増進であり、NPO 法人で働くことは、このサービス利用者のために働くことが、第一義的な目的であることです。

③. ケア労働にとって望ましい企業形態とは：安倍政権の「働き方改革」法についての批判的な紹介と、週刊 AERA の記事「幸せ経営」で提案されている四つの因子（幸福になるメカニズム）として、「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「あたらしく」これらの因子が、「ひなたぼっこ」の職場にあふれている（職場レポートの印象から）。その上で「心の声を聴くケア」がめざすものは、当事者の必要に応じて、そのくらしを丸ごと支えようとするれば、制度で保障されない経営資源（お金、労力、創意工夫、努力、共感等）が必要になる。

また、制度や国民的合意水準を越え、必要に応える営みが、その必要性への理解、共感・支持を生み出す。その典型例が、小規模多機能性生活介護というケアであり、ここにひなたぼっこの実践で、制度を動かした経験が生まれている。NPO 法人の活動は、公的制度の補完物でなく、みんなの思いと一線が、制度を動かす力となることを証明することであり、「ひなたぼっこ」の実践がそれ作り出している。

4. 今回職員研修会に参加したのは2回目。印象として残ったのは、「心の声を聴く」テーマに前向きに取り組んでいる職員の真摯な姿勢ですが、そのうえで労働条件でのいくらかの矛盾もグループワークのなかで感じられる場面もあった。これも日々の実践のなかで解決されていくように思われる。

（くまざき たつひろ）

## 「市民が協働を学ぶ講座」がスタートしました

ほぼ 1 年間の準備期間を経て、「市民が協働を学ぶ講座」がスタートしました。

研究センターの「第 4 期中期計画」の「学びと気づき」の事業の一環とし、また昨年度に提案された「2030 年へのメッセージ」とも関連しながらの発足です。本講座の目的は、「“2025 年～30 年はどんな社会になっているか”を考え、“持続可能な＝(PDCA サイクルを回せる)”“協働の組織を”、“どのように作るか”を学ぶ」をもとに、5 つの協働をテーマに講座が設計されています。「超高齢社会における協働」「社会における尊厳と協働」「文化的多様性と協働」「地域的・空間的資源の利用と協働」「人工減少社会と協働」です。今回はグループワークにも力を入れています。会場はいずれもコープあいち生協生活文化会館。

【第一回講座】10 月 5 日開催。(参加 22 名 講師含む)

### 1. 「市民が協働を学ぶ講座」の内容とその魅力(向井忍 地域と協同の研究センター専務理事)

開講にあたって、本講座の魅力と、その基調となる持続可能な社会をめざすべき、予測される人口減少社会の問題を、総務省の「自治体戦略 2040 構想研究会」報告書にも触れながら分析しています。具体的に東海三県の予測される人口減少について市町村レベルまで広げ、とくに生協組合員の加入率の傾向をふくめて、その現状を紹介しています。本講座全体に共通する人口減少社会についての現状認識となっています。

### 2. 記念講演「現代社会と持続可能性」

—20 世紀型経済循環システムの破綻と残された選択肢としての協働への回帰—

(向井清史氏 名古屋市立大学大学院経済学研究科 特任教授) :

その国に一回しか起こらない高度経済成長期には、経済ファクターとしての家計、企業、政府のトライアングルがうまく機能してきたが、過大な国家債務、公害、地域社会の崩壊などの弊害が生まれ、低成長期に入って、高齢化、人口減少とそれに伴う様々な問題が生まれている。地域の持続性に向けては、コミュニティ(自立した地域)の再建が重要で、そこに当事者性をサポートし涵養していくための生協の新しい役割がある。

コミュニティの持続を可能にするためには、協働の作法(リテラシー、ガバナンス)の確立が必要。生活リテラシー(支え合い、お互い様の価値観)の確立や、地域内で循環する経済の再建、小学校など地域の生活インフラが大切になる。好きな時に立ち寄れる、血縁を前提としない人の集まりとしてコミュニティ=居場所作りが重要。

【第二回講座】11 月 16 日開催 (参加 午前 26 名、午後 29 名 講師含む)

### 3. 「認知症 1000 万人時代とおたがいさまの地域づくり」(成瀬幸雄氏 南医療生協代表理事)

2060 年には認知症は 1,150 万人に増えると予想される。将来は、社会保障費が増え、介護負担も限界となり、単身世帯が増大し、また現状では産後に半数が精神疾患、子どもの 7 人に 1 人が貧困家庭となっている。南医療生協では、「地域医療」について、「地域包括ケアシステム」という言葉は使わず、医療、介護、福祉、住宅、くらしにすきまをつくらない、総合的な地域医療を進めている。2000 年介護保険スタート時、医療と介護は別々の対応だったが、現状生活支援も含め、三つが重なっている。南医療生協は「みんなちがって みんないい ひとりひとりのいのち輝くまちづくり」を基本理念に、4 つの良い医療。介護の指標を決めている。特に、地域に「ささえあい・たすけあいのネットワーク」があることが求められ、「おたがいさまシート」による問題解決や、JA やコープあいちと協同で、豊明市で「おたがいさまセンターちゃっと」の相談活動が広がっている。

### 4. 「ささえあいの家」の住民力(清水孝子氏 岐阜縁各務原市八木山地区社協)

郊外の大型団地として出発した八木山地区では、坂の多い街で、高齢化にともない、ここで住み続けるために自分たちでささえあう街をどうつくるかが課題であった。そのため、ランチ会や学び合い語り合う活動をすすめてきて、そこから「ささえあいの家」づくりがスタートした。多くの人がかかわって整備され、修理なども技術ある人の手で行われ、そこから「営繕の会」が生まれた。多くのボランティアが参加して「当番会」を中心に、活動の質と幅が広がっている。「暮らしを語る会」では、認知症茶話会(認知症カフェ)、子どもたちも参加して戦時体験を語る会や寺子屋など。「ささえあいの家」の活動により、地域の人たちの居場所やふれあいの場となるなどの、変化がうまれている。地域独自の移手段として地域バスを走らせることができ、「困った時の便利帳」をつくり活動の量も拡大している。営繕修理では一部有償化することで、地域での仕事づくりの芽も生まれている。

市民の講座運営委員・熊崎辰広(くまざき たつひろ)

# 情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半 定価 税別
<p>▶ 子どもたちや 子育て世帯を応援する 生協の取り組み</p> <hr/> <p><b>NAVI</b></p> <p>2018. 11 No. 800</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p><b>特集 子どもたちや子育て世帯を応援する生協の取り組み</b>                  &lt;コープのある風景&gt; 東都生協                  &lt;今日も笑顔のコープさん生協の仲間のお仕事拝見&gt;                  大阪いずみ市民生協 仁信慶佑さん                  &lt;想いをかたちにコープ商品&gt; CO・OPもち麦入り白い雑穀                  &lt;生協大好きママ コブ山さんの 教えて! CO・OP商品&gt;                  CO・OPくるみ黒糖 CO・OPくるみきなこ                  &lt;ZOOM IN 生協の店舗づくり&gt; 生協コープかごしま コープ南谷山店                  &lt;私の本ナビ&gt; 大阪よどがわ市民生協                  &lt;うちの生協にはこんな人がいます&gt; 生協ひろしま                  &lt;日本全国 宅配現場におじゃまします!&gt;                  コープふくしま福島北センター、福島南センター                  &lt;いつでもどこでも 地域とくらしを支えます&gt; ユーコープ                  &lt;☆突撃☆あなたの町の組合員活動&gt; コープにいがた                  &lt;明日のくらしささえあうCO・OP共済&gt; コープながの                  &lt;この人に聴きたい&gt; 女優 田中麗奈さん                  &lt;ほっと navi&gt; 広島県生協連 いわて生協</p>	<p>2018 年 11 月 A 4 判 36 頁 360 円</p>
<p>▶ ヘイトスピーチは 止められる 差別のない社会を つくる</p> <hr/> <p><b>社会運動</b></p> <p>2018. 10 No. 432</p> <p>市民センター政策機構</p>	<p><b>特集 ヘイトスピーチは止められる 差別のない社会をつくる</b>                  あらためて「世界人権宣言」を</p> <p><b>I ヘイトスピーチはなぜ繰り返されるのか</b>                  FOR READERS                  地方議会選挙に進出する人種差別政党                  来年の統一地方選に出馬するヘイト政党、日本第一党の正体                  ジャーナリスト 安田浩一                  日本人は植民地とどう向き合ってきたのか                  東京造形大学教授 前田 朗                  排外主義がはびこる社会で「対話」を促す                  慶應義塾大学教授 塩原良和</p> <p><b>II ヘイトクライムの現場から</b>                  京都朝鮮学校襲撃事件と裁判がもたらしたもの                  ジャーナリスト 中村一成                  京都朝鮮初級学校教員 金 志成                  ヘイトデモの標的になった川崎の多文化共生地区、桜本の闘い                  神奈川新聞記者 石橋 学                  朝鮮学校の生徒と歩む、共生社会への道 ビビンバネット                  「ニュース女子」に見るヘイトクライム                  あれから—「ニュース女子」の放送後                  のりこえネット共同代表 辛 淑玉                  ネット社会とヘイトスピーチ ジャーナリスト 津田大介                  全国初の大阪ヘイトスピーチ対処条例は                  差別発言にどこまで対応できているのか                  コリア NGO センター代表理事 郭 辰雄                  ヘイトに利用される選挙 葛飾区議会からの報告                  葛飾・生活者ネットワーク                  札幌市に「人種差別撤廃条例」をつくる                  札幌市議会議員 石川さわ子</p> <p><b>III 差別を止めるための道筋</b>                  社会を破壊する差別を食い止める                  反レイシズム情報センター代表 梁 英聖</p>	<p>2018 年 10 月 A 5 判 192 頁 1,000 円 (税別)</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 (税別)
	<p>ヘイトスピーチ解消法の施行から 2 年 問題点を見つめ新たな法律を 龍谷大学教授 金 尚均 日本の差別禁止の取り組みは不十分 ドイツにおけるヘイトスピーチ・ヘイトクライム規制と デモクラシーの活性化 早稲田大学名誉教授 坪郷 實 韓国語翻訳家の日々 子育ては続くよ 第 5 回 スマホのアプリで息子の軍隊生活を覗く 韓国語翻訳家・ライター 斎藤真理子 悼みの列島 日本を語り伝える 第 9 回 95 年前の過ちをたどる関東大震災での大虐殺 ライター 室田元美</p>	
<p>月刊 J A  2018. 11 vol. 765  全国農業協同組合中央会</p>	<p><b>スゴイ農業、スゴイ J A J A 自己改革の現場から</b> ブドウ産地の V 字回復を支える「生産販売農協」 —— J A 中野市（長野県）の取り組み 和泉真理 J A・農政トピック J A 出資型法人について考える 小針美和 さずな春秋 ——協同のこころ—— 童門冬二 私のオピニオン 阿川佐和子 地域を元気にする人たち 山岡淳一郎 J A トップインタビュー 法人化で農家の所得増大 三井久雄（滋賀県 J A グリーン近江 経営役員会会長） 展望 J A の進むべき道 第 4 回 J A 営農・経済フォーラムを終えて 脇岡弘典（J A 全中常務理事） 海外だより [D. C. 通信] 連載 90 日米物品貿易協定の交渉開始合意とアメリカの反応 吉澤龍一郎 平成 29 年度 J A 経営マスターコース優秀論文紹介 塾長賞 都市型 J A リーダーシップ戦略 池田晶平 / J A 大阪南（大阪府）</p>	<p>2018 年 11 月 A 4 判 48 頁 年間予約 5,109 円 (消費税込)</p>
<p>▶日本型 雇用システムの 現状と課題  生活協同組合研究  2018. 11 vol. 514  公益財団法人 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言 ワクワク・ドキドキ 本田英一 ▶ <b>特集 日本型雇用システムの現状と課題</b> 日本型雇用システムの根本問題 濱口桂一郎 同一労働・同一賃金にどう取り組むか 山田 久 「超短時間雇用」という新しい働き方の現状 近藤武夫 パートタイマーの賃金を考える ——雇用管理区分間の処遇格差をめぐる現状と対応施策 金井 郁 女性の就労と日本の人事管理 ——ダイバーシティ経営の実現に向けた今後の対応—— 松原光代 小売業労働組合における働き方改革の原型 ——1970 年代の腱鞘炎対策を素材にして—— 本田一成 コラム 生協職員の意識実態と人材育成 村田二三男 ■時々再録 天に唾する話 白水忠隆 ■本誌特集を読んで（2018・9） 塩入雄一郎・山懸宏寿 ●公開研究会 「生協は若年層にどう向き合うか」（11/22・京都） 「大学生の読書を考える」（11/30・東京） 「韓国の生協」（12/12・東京） 「人生 100 年時代のライフプランニング」（2019・2/1・福岡）</p>	<p>2018 年 11 月 B 5 判 76 頁</p>

【地域と協同の研究センター 11 月の活動】

1 日(木) 愛知の協同組合間協同相談会	16 日(金) 第 2 回市民が協働を学ぶ講座
6 日(火) 三重地域懇談会	17 日(土) 第 5 回共同購入事業マスターコース
8 日(木) 三河地域懇談会「豊川海軍工廠平和公園 見学会」	18 日(日) 第 75 回生協の（未来の）あり方研究会
9 日(金) 第 6 回協同の未来塾	20 日(火) 第 6 回常任理事会
12 日(月) 市民の講座運営委員会	27 日(火) 岐阜地域懇談会、名古屋市立大学寄付講 義相談会
14 日(水) 環境フィールドワーク「養豚によるバイオガス発 電を学ぶ」	30 日(金) 第 3 回市民が協働を学ぶ講座

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 (税別)
<p>▶TAG=日米FTA の始まり</p> <hr/> <p>文化連情報</p> <p>2018. 11 No. 488</p> <p>日本文化厚生農業協同組合連合会</p>	<p>農協組合長インタビュー (51) 農業を守ることは農村文化を守ること 浅沼 博</p> <p>新たなビジネスモデルへの挑戦 村上一彦</p> <p>平成 29 年度文化連会員単協決算分析 文化連 創立 70 周年記念講演会・記念祝賀会を開催 院長リレーインタビュー (306)</p> <p>大学・行政・住民と連携し急性期医療を守りきる 吉田雄樹</p> <p>二木教授の医療時評 (164) 医療費増加の「最大の要因」は医師数増加か? 二木 立</p> <p>TAG=日米FTAの始まり 農業だけではない、他分野の交渉が目指されている 内田聖子</p> <p>多様な福祉レジームと海外人材 (8) 台湾における外国人介護従事者 安里和晃</p> <p>韓国農業の実相—日本との比較を通じて (27) 米韓FTAと医薬品 品川 優</p> <p>地域基幹病院として高齢者社会を支える病院 JAとりで総合医療センターの高齢者歯科の取り組み ——口の健康と身体の内健康—— 井口寛弘</p> <p>第 5 回西日本厚生連看護部長ブロック交流会 全国統一献立 (高知：ショウガごはん、ショウガと蒸し鶏のサラダ、/鹿児島：さつま汁) 森澤恵美 前沢淑子</p> <p>野の風●イタリアに魅せられて デンマーク&amp;世界の地域居住 (114) 地域リビングプラスワン (東京都板橋区、高島平団地) 松岡洋子</p> <p>熱帯の自然誌 (32) 首狩りの風習 安間繁樹</p> <p>イギリスの病院 (4) ガイズ&amp;聖トーマス病院 (3) 問題提起と行動 小磯 明</p> <p>□書籍紹介 バナナと日本人 □DVD紹介 甘いバナナの辛い現実</p> <p>▶線路は続く (128) 開通 30 周年の瀬戸大橋線/西出健史</p> <p>▶最近みた映画 LBJ ケネディの意志を継いだ男/菅原育子</p>	<p>2018 年 11 月 B5判 80 頁 文化連情報 編集部 03-3370- 2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)を中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

【市民対象公害環境問題講演会】

ネオニコチノイド系農薬の使用実態と問題点

——新農薬ネオニコチノイドが日本を脅かす——

講師：水野玲子氏 (NPO 法人ダイオキシン環境ホルモン対策国民会議理事)

期日 2018年12月15日(土) 14:00~17:00

会場 保険医協会伏見会議室(名古屋市中区錦1丁目13-26 名古屋伏見スクエアビル9階)

Tel052-223-0415 \*地下鉄「伏見」駅10番出口・徒歩5分

ミツバチ大量死の原因とされるネオニコチノイド系農薬は、現在日本のお米、果物、野菜のほとんどに使われています。EUでは今年、この農薬の屋外使用禁止が決まりましたが、日本では使用促進です。この農薬の特徴や問題点を考えてみましょう。どなたでも参加いただけます。

【水野玲子氏】著書に、『新農薬ネオニコチノイドが日本を脅かす』(七つ森書館)、『知らずに食べていませんか?ネオニコチノイド』(高文研)『知ってびっくり子どもの脳に有害な化学物質のお話』(食べ物通信)等

主催：愛知県保険医協会公害環境対策部 名古屋市昭和区妙見町19-2

e-mail:aichi-kogai@doc-net.or.jp Tel052-832-1346/ fax052-834-3584

## 会員寄稿 ＜＜新企画＞＞

### 「第10回市民・地域共同発電所全国フォーラムin飯田」に参加して 佐藤、浦島太郎になる！！

佐藤尚子 2018.10.18

梅雨明けとともに始まった猛暑、豪雨災害、大阪や北海道での大地震、(13人もの死刑囚の執行)、その後の巨大台風と。気候変動による災害をまのあたりにして暗澹たる思いになる。私はつれあいに「いつ、災害にあつて死ぬかわからないので、長い間お世話になりました。ありがとうございます」と頭をさげた。そして、不安がっているだけではいけない。気候変動にむきあい温暖化防止に動かなくちゃ、と頭をきりかえる。そんなときに、市民・地域共同発電所全国フォーラムの話があり行くことにした。

飯田市(長野県)の「りんご並木」のりんごは、それはみごとにたわわになっていた。さてフォーラムは・・・FIT、ESG金融、長野県の環境戦略「経済は成長しつつ、エネルギー消費量と温室効果ガス削減がすすむ経済・社会」と謳う、入札制度、電力証書、シュットクベルク、RE100、自然エネルギー100%プラットホーム、EU再生可能エネルギー指令改定、国際再生可能エネルギー機関・・・聞きなれない言葉や概念が一気に押し寄せ、私の頭の中は「??」ばかり。

この起りは1972年のローマクラブ「成長の限界」から始まるのだろうが、1992年の地球サミットからとしての約25年間、その年月のエネルギー分野でおきていることを私は知る。弁明・無関心ではない、私には金がない。自分でやれることとしてエネルギーの無駄づかいはしない。夫婦2人で光熱水費は月1万円弱、それは安いものだ。けれども、市民発電に参加しない私、すなわち当事者でないということは、こんなにもわくわくする世界を知らずにすごしていたわけだ。浦島花子だったか。

とりあえず図書館に行く。なるほど、関連する本はいっぱいある。借りてきた本は「ソーラー女子、電気代0円で生活しています」というまじめな漫画本。一気に読み、翌日サンクッカー(太陽光調理器具)なるものをつくり、太陽光サツマイモをつくる。半生状態で日が暮れる。底冷えする家、植木鉢ストーブの準備にはいる。ふっふっふ！おまえ馬鹿か！のそら耳。夜半過ぎ起床(毎日)、机に向かう。次回(研究フォーラム環境世話人会にて)、押し寄せてきた言葉を深めた報告をするぞ！！

(さとう しょうこ・研究センター会員・岐阜県岐阜市)

会員・佐藤尚子さんより寄稿いただきました。

研究センターNEWS紙面が情報発信に加えて「会員参加・交流」の場ができるよう、「会員寄稿企画」を追加することにしました。参加したこと、実践していること、読んだ本や研究センターNEWS記事に関する感想等、500文字程度でお寄せ下さい(未発表に限る)。

まずは、不定期企画として始めます。寄稿はデジタルテキストで「E-mail: [AEL03416@nifty.com](mailto:AEL03416@nifty.com)」宛てお寄せください。

#### 地域と協同の研究センター12月の予定

1日(土)	第2回東海交流フォーラム実行委員会, 第3回理事会	11日(火)	NEWS編集委員会
3日(月)	研究フォーラム地域福祉―柴田学先生講義・懇談会	12日(水)	研究フォーラム環境世話人会、愛知の協同組合間協同相談会
5日(水)	尾張地域懇談会世話人会	14日(金)	第3回組合員理事セミナー、第4回市民が協働を学ぶ講座
6日(木)	第7回協同の未来塾	20日(木)	常任理事会

地域と協同の研究センターNEWS171号

発行日2018年11月25日定価200円(税・送料込み)  
年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 西川幸城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail [AEL03416@nifty.com](mailto:AEL03416@nifty.com) HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>